

純金「NEWクレラップ」を目指して真剣勝負

第2回純金「NEWクレラップ」クレハカット選手権、全国から14人が競う



① 左からキチントさん、ゆりやんさん、ザッキーさん、クレハの小林豊社長
② 決勝戦の様子。ザッキーさんは大会記録を出しました
③ 小林豊社長とじゃんけんして勝負
④ 純金製ミニチュアサイズNEWクレラップ(クレハ提供)

「第2回NEWクレラップクレハカット選手権」決勝大会が10月19日にKITTE丸の内1Fアトリウム(東京都千代田区)で開かれました。協賛会社のクレハ(ベルマーク番号10)主催で、制限時間30秒でいくつの食器にラップをかけられるかを競います。東京、福岡、名古屋、大阪、仙台での地区予選を経て、グランプリの賞品、100万円相当の純金製ミニチュアサイズNEWクレラップを目指し、14人が真剣勝負を繰り広げました。

ルール説明では、NEWクレラップにベルマークが付いていることが紹介されました。司会者は「はさみがなくても

ベルマークを切り取ることが出来ます」とアピール。「クレハは1996年からベルマーク運動に参加しています。お近くのスーパーやファミリーマートの回収箱に入れてください」と呼びかけました。

さあ競技開始。選手はみな緊張した面持ちです。2人ずつ舞台にあがり、指定の位置に両手を置いて構え、時報のような音を最後まで聞き終えてからラップをかけ始めます。審査は目視だけでなく、ビデオでも撮影されており、まるでオリンピックのようでした。

皆さん、さすが予選を勝ち抜いてきただけあって、スパッ!スパッ!と気持ち

よくカットしていきます。しかし、気持ちが焦ったためにラップが巻き戻ってしまい、ケースから出して必死に直そうとする場面もあり、観客からは声援が響きました。

熱戦の結果、31個の記録を出した東京代表のザッキーさんがグランプリになりました。これは予選大会も含めての最高記録。準グランプリになった大阪代表のゆりやんさんは21個でした。

ザッキーさんの練習には奥様も協力し、仕事を終えて帰ると、テーブルにラップとお皿が用意されていたそうです。ゆりやんさんは「気をつけたのはカチッと

音がするまで、窓から覗くクルリちゃんから目を離さないこと」と話しました。

クレハの小林豊社長は表彰式で「この大会は『NEWクレラップ』の魅力を知ってもらえるよう、企画しました。来年はオリンピックがありますが、それに負けないように、クレハカット選手権も続けられたら」と、意欲を示しました。

表彰式の前には、「〇×クイズ」と「じゃんけん大会」があり、大いに盛り上がりました。じゃんけん大会では、小林社長と勝負。勝ち残ったのは、普段「NEWクレラップ」を使っているという、偶然通りかかった方でした。

「赤箱のある毎日」Instagramに投稿を

牛乳石鹼共進社が「#赤箱女子」キャンペーン

協賛会社の牛乳石鹼共進社(ベルマーク番号37)がInstagramを使ったキャンペーンを実施中です。指定の応募方法で、「赤箱のある毎日」を投稿すると、抽選で毎月5名様に素敵な景品が当たります。

【応募方法】

①Instagramアカウント「@cowakacp(カウブランド赤箱【公式】)」をフォロー②「赤箱のある毎日」をテーマに写真撮影③写真に「@cowakacp」をタグ付けし、ハッシュタグ「#赤箱女子」を付けて投稿

【応募期間】

2020年3月まで、毎月抽選が行われます。

【景品】

毎月5名様が当選。景品は月によって異なります。

【応募について】

非公開のアカウントや応募方法と異なる投稿は対象外。同一の写真を複数投稿した応募は無効です。景品の発送先は国内のみです。

【当選した場合】

当選者にはダイレクトメッセージで通知が届きます。指定の期限までに景品のお届け先や必要事項を、メッセージ内の入力フォームから登録してください。7日以内に登録がなかった場合は当選無効となります。

※赤箱公式アカウント「@cowakacp」のフォローを外すと、当選連絡のメッセージが送れなくなるので、フォローは外さないようにしてください。キャンペーンについての詳細は、牛乳石鹼共進社のHPをご覧ください。



みなさんの
すてきな写真、
投稿してね!!



厚真中央小から感謝のDVD届く

先生と子どもたちで企画

昨年9月の北海道地震でベルマーク財団から支援した学校のひとつ、厚真町立厚真中央小学校(児童150人)の池田健人校長から「笑顔で前へ〜感謝を込めて〜」と題するDVDが届きました。学校をサポートしてくれた人たちへの「恩返し」なのだそう。

最初に透明ケースに入った稲穂が映ります。稲作体験先だった農家から、地震で子どもの手による収穫ができなかった代わりに届けられたものです。

続いて、被災後の学校生活を写真で振り返ります。全国から届いた手紙や寄せ書き、俳優の生田斗真さんやプロ野球日本ハムの栗山英樹監督らが訪問した様子、今年

4月の入学・進学。そして、子どもたちが学年ごとに声をあわせ、バトンをつなぐようにメッセージを語ります。「全国のみなさん、たくさんの励ましをありがとうございました。私たちはこんなに元気になりました。これからも笑顔を大切に一步一步前に進んでいきます」

地震から1年の9月6日に開かれた「感謝の集い」に向け、被災以降の出来事をプラスに振り返ろうと、先生と子どもたちで企画して映像を作りました。そこに「集い」での合唱などを加えたのがこのDVDでした。池田校長は「今後つらいことがあったら、たくさんの人に支えられたことで乗り越えてほしい」と話しました。

